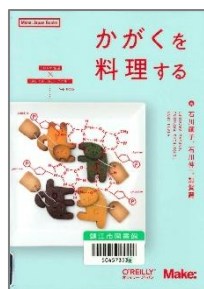


2025 年 4 月号

『かがくを料理する』
石川繭子、石川伸一、加賀麗/著
オライリー・ジャパン
2023. 9 発行
(596/カ)



細胞は太巻き寿司、体細胞分裂はピザ、水分子が目玉焼きになるなんて！「かがく」を料理で表現し、食べて理解を深めようとするユニークな再現メシ本です。中にはニューロンのいかつくね串という衝撃ビジュアル料理などもあり、絶妙においしくなさそう…と思っていたら、血液と免疫細胞のあんみつは著者自らカオスと表現していました。

料理のレシピと「かがく」のコラムも掲載されており、実際に作って食べて学べるお得？な一冊です。

興味の対象を食べて頭とお腹で理解することが、この再現メシの醍醐味かもしれませんね。(K)

2025 年 5 月号

『トゥモロー・アンド・トゥモロー・アンド・トゥモロー』
ガブリエル・ゼヴィン/著
早川書房
2023. 10 発行
(933/ゼ)



子どものころゲーム仲間だったサムとセイディは、地下鉄の駅で偶然再会する。大学でゲーム制作を学ぶセイディは、自分が作ったゲームをサムに渡し、そのゲームをプレイしたサムは、一緒にゲームを作ろうとセイディを誘う。大学を休学してふたりで作ったゲームは大ヒットし、大手ゲームメーカーと契約することになる。全て順調かと思われたが、商品化にあたっての意見の違いから少しずつふたりの関係に溝ができていく。

恋人を探すより創作のパートナーを探す方がむずかしい、というセイディだが、パートナーであり続けることはもっとむずかしくて…。(m)

2025 年 6 月号

『わからないままの民藝』
朝倉圭一/著
作品社
2024. 7 発行
(750/ア)

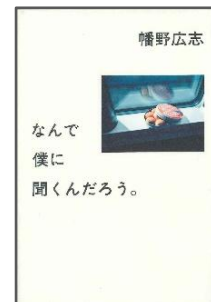


今年、柳宗悦らが提唱した「民藝」という言葉が生まれてから 100 年を迎えます。「民藝って、何？」とお思いの方もいらっしゃると思います。民藝とは、職人の手で作り出され、地域に根ざした人々の生活のなかでうまれた日用品、民衆的工藝、の略として呼ばれてきました。

現在は、量産された安価な日用品や丈夫で割れにくいプラスチック製品などが、使い勝手がよく、暮らしに取り入れられています。そんな今だからこそ、民藝の素朴さや美しさ、その地域のものづくりの素晴らしさを改めて感じたいと思います。(s)

2025 年 7 月号

『なんで僕に聞くんだろう。』
幡野広志/著
幻冬社
2020. 2 発行
(159/ハ)



どんな人にも悩みはあります。悩みがあるとき、誰かに相談しますか？

多発性骨髄腫と診断され、余命宣告を受けた写真家の著者に、Web 上でたくさんの人が、なぜか他にはできない相談をします。

人の悩みはすべて人が原因。人の悩みを解決できるのも人。もし、相談されたら、背中を押せる存在でありたい。

悩みを解決できなくても、思いやることは可能かもしれません。(m)

2025 年 8 月号

『365日 日本一周鉄道の旅』

蜂谷あす美/執筆
いろは出版
2021.9 発行
(686/ハ)



福井県出身で、日本全国のJR線全てに乗車したことのあ
る著者の蜂谷あす美さん。彼女は敦賀車掌区所属の元国鉄マ
ンの祖父を持つ鉄道好きの旅の文筆家である。本書では、そ
んな著者の経験が余すところなく披露されている。

鉄道好きの私にとって、鉄道旅への夢や妄想をかきたてて
くれる、たまらない一冊である。

車窓を流れる景色を眺めながら好きな音楽を聴いたり、本
を読んだり、時には昼寝したりと、気ままな鉄道旅に私もま
た旅立ちたい。(Y)

2025 年 9 月号

『せかいでいちばん 熱い日本酒』

岡本 進/著
朝日新聞出版
2023.2 発行
(588/オ)



『酒造りというのは一人で全部背負わなければいけない。
いいスタートがあって変化球も生きる』(本文より)

まず、男たちの日本酒にかける情熱や仕事の姿勢に魅了さ
れます。本当にうまい酒を造るために、ライバルたちと競い
あいながら、高みを目指す。苦難あり、喜びあり・・・一つの
ことにとことんまで打ち込んでいく男たちの姿に、気づけば
釘付けになり、ぐいぐい、物語に引き込まれていきます。

熱く、元気が出るノンフィクション小説です。

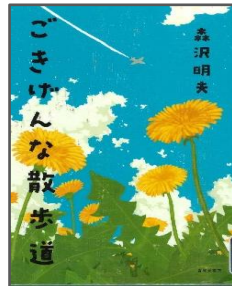
読み終わった後は、うまい日本酒が飲みたくなります！

そんな日本酒に関連する本を集めてみました。(S)

2025 年 10 月号

『ごきげんな散歩道』

森沢明夫/著
春陽堂書店
2021.7 発行
(914.6/モ)



歩くたびに新しい風景に出会う。

本書は著者が散歩して歩く日々の出来事を情景描写してい
るエッセイです。歩く時間も距離も気にせず寄り道したり、
立ち止まって道端の草花の香りを嗅いだり、猫ちゃんと出会
ったり、お寺の掲示板の書を読んだり、青空を見上げたり…

著者と同じような写真を散歩の途中で撮っている私は、ど
こか共感して思わず笑ってしまいました。

※散歩の際は水分補給を心がけてくださいね (A)

2025 年 11 月号

『クリームイエローの海と 春キャベツのある家』

せやま南天/著
朝日新聞出版
2024.4 発行
(F/セヤマ)



家事代行の仕事をはじめた主人公、津麦（つむぎ）が仕事
や人との関わりの中で悩み、受け入れ、寄り添いながら、
光を見つけていく物語です。

描かれるリアルな生活感、それぞれの登場人物の心情や痛
みへの共感…。温かく穏やかなラストシーンまで心揺さぶ
られながら、一気に読み進めてしまいました。

津麦が手際よく作る料理もおいしそうです。

過ごしやすい季節になりました。私も夏の暑さで(?!先延
ばしにしていたあれこれを始めてみようと思います♪

家事にまつわる本を集めてみました。(M)

2025 年 12 月号

『わたしたちが光の速さ で進めないなら』

キム・チョヨブ/著
早川書房
2020.12 発行
(929/キ)



K-POP に続き、韓国文学も日本で関心が集まっています。
本書は韓国の SF 短編集です。

私はこれまで、SF に現実感がなく話に入り込みにくい印象
を持っていました。けれども、本のタイトルと表紙に惹かれ
て手に取ったことがきっかけで読んでみることに。

一番好きなお話は「館内紛失」です。

舞台は、書物ではなく死者のデータが保存される未来の図
書館。SF 的設定なのに、登場人物の心情がリアルで強く心を
動かされました。SF が苦手な人にも読んでいただきたいで
す。

韓国文学の表紙はオシャレなものが多く、つい手に取りた
くなります。今回は可愛い表紙の韓国文学を集めてみまし
た。(f)

2026 年 2 月号

『もっとうまくなりたい！ わたしのスマホ写真』

イエローテールコンピュータ/文
磯田 裕子/漫画
技術評論社
2025.11 発行
(743/モ)



趣味のお城巡りに行ったとき、お城や地域の風景やステキ
なお店、食事などを撮影しています。でも家に帰ってからス
マホのアルバムを見ると、なんだかイマイちな写真ばかり
…。もっとうまく撮影したい！と思っていたら、書棚で見つ
けました。

漫画が使われているので気軽に読めて、解説に併せて写
真もあってわかりやすいです。基本編、応用編、おうち編、
実践旅行編に分かれていて、少しずつスマホのカメラの機能
やその使い方を知ることができます。

次のお城巡りではステキな写真が撮れるはず！？(S)

2026 年 1 月号

『ムーミン谷の冬 ムーミン全集〔新版〕5』

トーベ・ヤンソン/著
講談社
2020.2 発行
(949/ヤ/5)



最近、睡眠に関して悩むことが増えてきました。年齢的に
仕方のないことのようにですが、眠れないことにストレスを感
じてしまうと毎日元気に過ごせません。あの大谷選手の強さ
の秘訣は 10 時間の睡眠だといわれているほど大切な睡眠。私
も心と体の健康を保つため、日々情報を集めてあれこれため
しています。

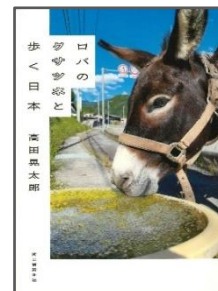
そんな中、眠る前の読書を習慣化することもリラックスの
効果があると知り選んだのが本書です。真冬の白一色のムー
ミン谷で、家族全員が冬眠する中、ムーミントロールはひと
り目が覚めてしまい…。ムーミンシリーズは児童文学の名作
ですが、大人が読んでも案外内容が深く、眠る前の穏やかな
読書タイムにぴったりでした。

今回は眠りに関する本や、眠る前に読みたい本を集めまし
た。(T)

2026 年 3 月号

『ロバのクサツネと 歩く日本』

高田 晃太郎/著
河出書房新社
2025.7 発行
(291.0/タ)



皆さんはロバを見たことがありますか？絵本や物語ではよ
く登場するロバですが、実際に見たという人は少ないので
は。世界には 500 万頭いて、荷運び等に活躍しているロバで
すが、日本にはわずか 300 頭しかいないそうです。

そんなロバに荷物を積んで前作（『ロバのスーコと旅をす
る』）で世界を旅した著者が、今回は「クサツネ」と名付け
たロバと一緒に日本を歩きます。文字通り道草を食べなが
ら、沢山のひとと出会い、旅をするうちにクサツネとの仲も深
まっていきます。福井も通過しているので、見かけた人もい
るかもしれませんね。(Y)